

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3 年 3 月 1 日

事業所名 児童発達支援事業所 きらり玉島

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・本人に分かりやすい様、構造化している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・2階部分を運動のできるスペースとして設定している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、必要な職員が参画している	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の通信やホームページ等で公開している	○		・ホームページや、事業所への掲示を行うことで周知できるようにしている。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・職員の要望による研修も実施している。	・外部研修への積極的参加を促す
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・支援計画作成にあたって、保護者との懇談などを行い、子どもの現在の状況を共有し、計画に反映するようにしている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			・使用されている標準化されたアセスメントツールの適正性が、分からない、という意見があったので、適切かどうかの検証を行う。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・支援に関して、職員で毎日振り返りを行っている。	必要に応じて、法人内の専門職職員に、プログラムへのアドバイスをもらう。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・活動内容を紙に記載して残し、次回プログラムを組み立てるときの参考にしている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・役割分担について確認し合っている。（朝礼時）	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・その場にはいない職員も共有できるように記録を残し、あとで確認、押印している。（終礼時）	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			・モニタリングの時期がずれる事がないよう、早めに計画を立て、きちんと実施できるようにする。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	○		・担当制のため、その者が責任をもって会議に参加している。	
	22	○			・コロナ禍で実施できなかったこともあるので、次年度に向けての連携の取り方を考えていく
	23	○			・現在、対象となる児童がいないが、連携の取れた支援を考えることはどのケースにおいても重要である。
	24	○			同上
	25	○		・日々の支援に関しては、連絡帳を介して共有している。必要に応じ訪問も行っている。	
	26	○			
	27	○		・センターとの連携は有り。研修等への参加や、講師としての参加も行っている。	
	28	○			・所属先のある利用児さんを受け入れていることもあり、積極的な交流の場を持つことはできていないが、機会があれば、持つことも検討したい。
	29	○			・今年度は、コロナ禍であり、機会がなかったが、今後も機会があれば積極的に参加する。
	30	○		・お迎えの際、連絡帳を通して、1日の状況や、課題の到達度について、共通理解の時間を作っている。	
	31	○			
保護者への説明責任等	32	○		法人の理念、事業所の理念等も丁寧に説明し、共有している。	
	33	○			
	34	○			
	35	○			・今年度は、コロナのため実施は難しかった。場所の検討も含め、安心して実施できる状況下で行うようにする。
	36	○			
	37	○		・月1回きり通信の配布や、ホームページを通して、定期的に（3回/M）情報発信している。	
	38	○			・保護者からの指摘もめったにないが、積極的な情報交換が他者に聞かれないよう個別の場を確保し実施する
	39	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			・法人内の他事業所で作っている野菜やお菓子を行事があるときに配ったり、まずは関係性を作っていく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもの対応について、職員が周知している	○			
	45	ヒヤリハット、事故発生処理報告書を作成、事業所内で共有し、再発防止に役立てている	○		・ヒヤリや、事故に至るまでの”気づき”に配慮できるよう強化月間を設けている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・定期的に、研修の場を持つようにしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、該当する場合は、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			・身体拘束に対する組織的な決定事項はあるが、現在は、対象となる児童はいない。